

国際シンポジウムを経験して

工学府物質工学専攻M2 古賀 啓章



学会参加にあたり

2013年12月6日～12月8日に韓国の釜山で開催された、ISCHE2013 (The 26th International Symposium on Chemical Engineering) に参加し、口頭発表を行いました。

学会での経験

学会での体験を通じて、英語力の必要性を感じました。国際学会なので、研究の説明や質問は英語で行いました。研究の説明に関しては、事前に準備をしていたので説明することができました。しかし、質問をさ

れると相手の質問の内容は理解することはできたのですが、返答を上手く英語で表現できませんでした。また韓国では現地の人と会話するには英語が必須となりました。以前台湾で開かれた国際学会に参加した時は漢字が使用されていたので、現地の人と文字を紙に書いてコミュニケーションをとることができましたし、露店などでも何を売っているの



学会にて

かある程度わかりました。しかし、韓国ではハングル文字が用いられているため食事をする時も、メニューを読むことができず、会話は全て英語で行いました。このように韓国では英語力が必要とされる場面が何度もあり、改めて英語力を上達させる必要性を感じました。

釜山滞在

発表後に釜山を散策したのですが、露店通りにまず驚きました。道の両端に露店がずらりと並び、大量の鰻が入った水槽や豚の頭が置かれており、活気に満ち溢れていました。食事は海岸沿いの市場でとったのですが、日本では見たことのない様々な魚貝類を食べることができました。他にも、射撃上に行き実弾を撃つ機会もありました。拳銃は思っていたよりも重く、耳あてをしているにも関わらず、発砲する度に轟音が聞こえました。映画では片手で銃を連射する場面もありますが、実際に銃を撃つてみると反動が大きく、目の前にある的に当てるのも一苦労でした。全部で30発程撃ちましたが、良いストレス発散になりました。このよう

に日本ではできない体験をすることができ、有意義な時間を過ごせたと思います。



射撃場にて

謝辞

最後に国際学会参加にあたり、経済面で奨学金を援助していただいた明専会に厚く御礼申し上げます。